

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 森島大雅


論文題目

Prospective multicenter study on the usefulness of EUS-guided FNA biopsy for the diagnosis of autoimmune pancreatitis


(自己免疫性膵炎の診断における超音波内視鏡下穿刺吸引生検の有用性に関する多施設共同前向き研究)


論文審査担当者

主 査

名古屋大学教授
委員 柳野正人 

名古屋大学教授
委員 小寺泰弘 

名古屋大学教授
委員 長縄恒之 

名古屋大学教授
指導教授 後藤 亮 実 

論文審査の結果の要旨

今回、自己免疫性膵炎(Autoimmune pancreatitis: AIP)が疑われる症例に、22G針を用いて低侵襲な病理診断方法であるEUS-FNA biopsyを行い、得られた膵組織の病理学的評価がAIP診断に寄与しうるかに関して多施設共同前向き研究を行った。組織学的検討の結果、国際コンセンサス診断基準(International Consensus Diagnostic Criteria: ICDC)に記載されている病理所見の中で、閉塞性静脈炎、および花筈状線維化を診断することはできず、病理診断のみでAIPの確定診断を行うことは困難と考えられた。しかし、ICDCの他の所見(画像所見、血清IgG4値、膵外病変、ステロイド治療効果)と組み合わせることで、AIPの診断能を向上させることができた。この結果、22G針を用いたEUS-FNA biopsyで得られた膵組織の組織診断のみでAIPの確定診断は困難であるが、他の臨床所見と組み合わせることでEUS-FNA biopsyはAIP診断の精度をあげると考えられた。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. ICDCの画像所見、血清IgG4値、膵外病変をのみではAIP診断ができない症例に対して、EUS-FNA biopsyはAIP診断の精度を向上することが可能であり、また臨床で問題となる膵癌との鑑別も可能であることから、AIP診断には必要な検査であると考えられた。
2. 既報では、病理診断のみでAIP診断が可能かを後ろ向きで検討していた。その結果は19G針やコア生検針といった太い針を用いることでType 1 AIPの特徴であるLymphoplasmacytic sclerosing pancreatitis (LPSP)の病理学的確定診断は可能であると結論づけられ、またType 2 AIPに特徴的なIdiopathic duct-centric chronic pancreatitis (IDCP)の病理学的診断はEUS-FNA biopsyでは困難であるとされていた。しかし、世界で初めての多施設共同前向き研究である本研究では、既報と同様に22G針ではType 1 AIPの確定診断(LPSP level 1)は困難であったが、LPSP level 2およびType 2 AIPの確定診断(IDCP level 1)は可能であることを示し、またEUS-FNA biopsyの病理所見(LPSP level 2、IDCP)や、ICDCの他の所見(画像所見、血清IgG4値、膵外病変、ステロイド治療効果)を用いることで、50例のAIP疑い症例のうち、45例(90%)でAIPの診断が可能であることを示した。
3. 膵切除と針生検を比較した既報では、LPSPの検出率は、膵切除では90%程度、Core biopsyでは26~44%とされ、LPSP確定診断に必要な十分な組織量は切除でのみ可能とされており、本研究でもLPSPの確定診断(Level 1)はEUS-FNA biopsyでは困難であった。
4. EUS-FNA biopsyの手技に特別な工夫は無かったが、Type 2 AIPの病理学的確定診断(IDCP level 1)に必要なGranulocytic epithelial lesion (GEL)所見を認めた3例中2例で、穿刺針に22Gの逆刃側孔付き穿刺針を用いており、穿刺針の違いによる影響も推察されるが、少数での評価であり今後の検討が必要と考えられた。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	森島 大雅
試験担当者	主査	柳野 人	小寺 泰弘	長 紀 伸
	指導教授	後藤 秀実		
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究結果をふまえての、自己免疫性膵炎(AIP)診断におけるEUS-FNA biopsyの役割について 2. AIP診断におけるEUS-FNA biopsyの有用性を検討したこれまでの報告との比較について 3. AIPの病理診断における手術検体とEUS-FNA biopsyとの比較について 4. 既報で診断困難とされるType 2 AIPの病理学的確定診断が可能であったことについて <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				